20201130

絵本学会 NEWS No.68

発行：絵本学会
発行日：2020年11月30日
編集：絵本学会広報委員会

絵本学会事務局：〒448-0852 愛知県刈谷市住吉町4-5
刈谷市美術館内　絵本学会事務局
E-mail office@ehongakkai.com
http://www.ehongakkai.com

絵本学会

第23回、第24回合同絵本学会大会のお知らせ
役員選挙について
「絵本フォーラム2019」報告
2020年度研究助成審査結果報告
各委員会からのお知らせ
絵本学会WHO'S WHO
新入会員の紹介
理事会議事録

ー第23回、第24回合同絵本学会大会（2021年度）のお知らせー

■ 第23回絵本学会大会について

南阿蘇大会開催中止のお知らせ　ー新型コロナウイルス時代における不安と展望ー

新型コロナウイルスの感染拡大は100年に一度とも言うべき大きな出来事でした。コロナは世界中で、今なお多数の犠牲者を出し続け、感染によるパンデミックがあり、ロックダウンが実施されています。科学者たちは、過去の事実を振り返ると、生きるということは感染症との闘いの歴史であったと語っています。細胞生物学者の永田和宏は「・・・ペストや天然痘、インフルエンザをはじめとする感染症が・・・猛威を振るい、時には世界人口の10～30パーセントもの犠牲者が出ることもあった。」（『コロナの時代をよむ』）と書いています。科学者ではない私たちも、事態に対しては科学的に対処する姿勢を持たねばなりませんが、刻々と変わる状況に、今のところなすすべもありません。

そんな状況の中、理事会では熊本県南阿蘇での大会を2021年6月に延期することを決定し、学会総会でも承認されました。しかし、その後の状況は決して楽観できるものではなく、コロナはいつ終息するのか、皆目見当もつかない状況です。また確実に効くワクチンが完成し、安全に使用できるまでにはまだまだ時間がかかると言われています。

皆様がご存じのように、南阿蘇は先年、熊本大地震に見舞われ、昨年も大雨の大被害を受けました。学会では、この地で大会を開催することで地域を活性化し、復興支援をしたいと願っていました。この状況下、実行委員一同、大会を成功させようと、日々準備に追われてきました。

しかし、南阿蘇は観光地でもあり、実行委員の関係者に高齢者も多く、しかも予定の施設は情報環境が十分にはそろってなく、ここにきて、この土地での大会開催は不可能との苦渋の決断をせざるを得なくなりました。ということで、誠に申し訳ございませんが南阿蘇での開催を中止と致しますことを、ご報告し、ご理解いただきたくお願い申し上げます。

前後してこの間、理事会では何度もメールで連絡を取り合い、現地とも相談を重ね、さらにリモート理事会審議を行いまして、以下のようなことを決定いたしました。第23回大会の登壇予定であった講演者、柳田邦男氏といせひでこ氏の講演内容を、学会機関誌『絵本BOOKEND 2021』に掲載し、またラウンドテーブルで予定しておりましたディスカッション等の一部を同機関誌の特集部分や美術館紹介の項で発表、紹介することに致しました。

一方、研究発表、作品発表などは、次の愛知県刈谷市での大会で、「第23回、第24回合同での大会開催」という形で実施することを決定致しました。第23回の発表予定者であった方々には、事前に実行委員会より、刈谷で予定日に発表されるか、できるかの確認をさせていただく予定です。各発表は、第23回、第24回を含めて部屋割り、時間などを考慮しなければならないと思われますが、万が一、申込み人数が多い場合は、各回を別部屋、別時間に分けて実施することも想定しておかねばなりません。私どもは学会員として、コロナ禍にもかかわらず、自由に発表し、討論する機会が出来るだけ得られますよう尊重したいと願っています。

行先の見えない今、確実にはわからなくとも、いつか期待できる展望があると信じて進めたいと願っています。今、暗闇が立ち込めていても、自然と医学に対する畏敬の念を持ち、望みを持ち続けたいと思います。

最後に、南阿蘇での開催中止を重ねてお詫びするとともに、ご理解のほど、お願い申し上げます。

第23回絵本学会大会実行委員長：藤本 朝巳

第23回、第24回合同絵本学会大会について

熊本県阿蘇郡高森町で予定しておりました第23回絵本学会大会が、新型コロナウイルス感染症拡大のために開催が困難となりましたので、事務局のある愛知県刈谷市におきまして、第23回、第24回合同での大会開催をお引き受けすることにいたしました。刈谷会場での大会開催は、2014年度の第17回大会に続いて、2回目となります。当日は、刈谷市美術館におきまして、「ミロコマチコ展」を開催しております。

つきましては、コロナ禍における大会開催となりますので、開閉会式や交流会を控え、研究発表、作品発表、ラウンドテーブル、総会を行うシンプルな内容を予定したいと思います。来年5月下旬がどのような感染状況か予測できませんが、3密を避けつつ、出来得る限り対面による開催を目指したいと思います。

私としましては、今大会が事務局長としての最後の仕事となります。参加をご希望の方々には、感染状況により、多々ご迷惑をおかけすると存じますが、何とぞご了解くださいますようお願い申し上げます。

第24回大会実行委員長　松本 育子

上記の通り、第23回、第24回絵本学会大会は合同絵本学会大会として、2021年5月30日（日）に刈谷市総合文化センターで開催されることになりました。
研究発表、作品発表を希望される会員は、以下の要項を参照してお申し込みください。

第24回絵本学会大会　研究発表 募集要項

1. 発表者の資格（応募資格）
   絵本学会の会員で、2020年度までの会費を納入済みであること。
   新規入会者の場合は、2021年1月20日（水）の時点で入会手続きが完了していること。
2. 発表テーマ
   絵本及び絵本に関連する研究テーマで未発表のもの。
3. 発表時間
   発表 20分間　　質疑応答 10分間
4. 申し込み要領
   ①発表テーマ、②発表者の氏名・住所・電話／FAX番号・メールアドレス、③所属機関名・職業など、④発表要旨（800字程度/大会プログラム用原稿）、⑤発表時に使用する機材（パソコン、PCプロジェクター）
   以上の①～⑤について、文書化したものを絵本学会事務局宛に郵送またはメールでお届けください。
5. 申し込み期間
   2021年2月1日（月）～2月21日（日）〔期間内に必着〕
6. 発表者の決定
   研究発表は、発表申込者が定員を超えた場合は抽選とします。発表順・時間等は、3月21日（日）までにお知らせします。
   ＊書画カメラの使用は不可です。
   ＊受理した原稿等は返却しませんので、必ず控えをとってください。

第24回絵本学会大会　作品発表 募集要項

大会会場に会員の作品を展示し、会期中の所定の時間に出品者自らが制作趣旨を口頭で発表していただくことを条件とします。

1. 発表者の資格（応募資格）
   研究発表と同じ
2. 発表作品
   未発表の絵本（個人制作、共同制作ともに可）
3. 発表形態
   判型・サイズ・ページ数などは自由。原画を原寸でカラーコピーしたシートの全画面と、カラーコピーなどで製本したものを1冊出品すること。
4. 申し込み要領
   ①作品タイトル、②発表者の氏名・住所・電話／FAX番号・メールアドレス、③所属機関名・職業など、④原画サイズ・枚数、⑤作品紹介原稿（200字程度）
   以上の①～⑤について、文書化したものを絵本学会事務局宛に郵送またはメールでお届けください。
5. 申し込み期間
   2021年2月1日（月）～2月21日（日）〔期間内に必着〕
6. 発表者の決定
   作品発表は、発表申込者が定員を超えた場合は抽選とします。作品搬入の期日・方法、発表順・時間等については、3月21日（日）までにお知らせします。これらの詳細は第24回絵本学会大会実行委員会より連絡します。

【研究発表・作品発表の申し込み】
〒448-0852　愛知県刈谷市住吉町4−5　刈谷市美術館内　絵本学会事務局
FAX：0566−26−0511　E-mail：office@ehongakkai.com
＊発表内容と当日の記録写真は、絵本学会NEWSおよびホームページを通じて公開されることがありますのでご了承ください。

事務局からのお知らせ

◉ 役員選挙のお知らせ

理事、監事の選挙があります。理事、監事の候補者をご推薦ください。

○ 自薦・他薦可、何名でもかまいません。
○ はがきか封書で〈絵本学会事務局「選挙管理委員会」〉までご郵送ください。メールや FAX は不可。
○ 締切は 2021年2月5日（金）[必着]、「推薦する人」と「推薦される人」の名前を明記してください。
・任期は3年。理事は10名の内7名は正会員の選挙で任命されます。3名は理事会の推薦を得て会長が任命します。
・選挙による理事候補者は、70歳を越えない会員となっておりますので、ご推薦の際はご留意ください。
・理事を直前に連続2期続けた会員（澤田精一、生田美秋、松本育子）は、今回の選挙では候補者とはなれません。
・監事は、任期や年齢の期限がありません。

ー 候補者を決定して以後の選挙日程 ー
○ 選挙管理委員会が、推薦された候補者の名簿を作成します。
○ 2月26日（金）までに名簿と投票用紙を会員に郵送します。
○ 投票締切は3月19日（金）[必着]です。投票用紙を返信用封筒に入れて郵送してください。
○ 選挙の結果は、絵本学会ホームページと『絵本学会NEWS』69号（2021年3月発行・4月発送予定）で公表します。
○ 選出された新理事（候補）の互選によって会長（候補）が決定し、会長（候補）推薦による事務局長（候補）と 3名の理事（候補）を含む新理事会は、5月の総会で会員の承認を経たうえで、正式に発足します。
★ 2021年5月の総会までは、現役員が業務を担当します。

〈参考〉
■ 理事選出規則
1. 理事は10名の内7名は正会員の中から正会員の選挙によって選出される。上位7番目までに同数得票者が複数ある場合は、上位から7番目までを当選とする。なお、7番目までの最小得票者が複数ある場合は、選挙管理委員会の抽選により決定する。
   会長は、理事会の推薦を得て、さらに 3名の理事を任命することができる。
2. 理事候補者は、選挙の1ヵ月以上前までに自薦、推薦によって選挙管理委員会に届け出を行う。
3. 理事候補者は、70歳を越えない者とする。ただし、会長によって任命される 3名の理事は、その限りではない。
4. 理事の選挙は、7名を連記し郵送によって行う。
5. 選挙および会長任命によって選出された理事は、総会の承認を得て決定する。

■ 監事選出規則
1. 監事は、正会員の中から正会員の選挙によって、2名が選出される。上位2番目までに同数得票者が複数ある場合は、上位から2番目までを当選とする。なお、2番目までの最小得票者が複数ある場合は、選挙管理委員会の抽選により決定する。
2. 監事候補は、選挙の1ヵ月以上前までに自薦、推薦によって選挙管理委員会に届け出を行う。
3. 監事の選挙は、2名を連記し郵送によって行う。
4. 選挙によって選出された監事は、総会の承認を得て決定する。

＊絵本学会ウェブサイト（http://www.ehongakkai.com/about/pg10.html）より転載

「絵本フォーラム2019」報告

日時：2020年2月8日（土）14:00〜16:00
場所：京都女子大学　図書館交流の床

2020年2月8日（土）に、京都女子大学にて、絵本作家のみやこしあきこさんと編集者の沖本敦子さんによる絵本フォーラム「『ぼくのたび』ができるまで」を開催しました。

『ぼくのたび』の制作風景を記録した映像、みやこしさんご自身の旅やドイツで暮らした日々を写した写真も見せていただきながら、沖本さんが聞き手となって、「絵本作家になるまで」「絵本の制作と手法のこと」そして、「国際的な評価と活動、そしてこれからについて」という3部構成で、2時間にわたり講演をしていただきました。

みやこしさんによる絵本の読み聞かせもあり、大学在学中に制作し、第20回「日産童話と絵本のグランプリ」絵本部門優秀賞を受賞した絵本『もうすこしとおく』も初公開されました。今号では、第2部の記録をお届けします。

<第2部>絵本の制作と手法のこと

沖本さん（以下O）：絵本の制作と出版について、『ぼくのたび』を中心にお伺いしたいと思います。

メイキングがあるので、まずはみなさんと一緒に見たいと思います。

<『ぼくのたび』メイキング映像の公開 >

O：私は常に自分が担当している作品が大好きなので、これは、もう何度も何度も、うっとりとしながら見ていたメイキングですね。『ぼくのたび』の一番大きなところは、全てリトグラフで作っているところだと思うんですけど、リトグラフという手法を選ばれた理由はなんですか。

みやこしさん（以下M）：私はいつも絵本を作るときに、もとになる1枚の絵、イメージがあって、そこからお話を、世界を広げていって、絵本を作るんです。今回の絵本はそのもとになるタブロー、作品がリトグラフだったということもあって、自然と全てリトグラフで作りたいと思いました。

リトグラフを5年ぐらい前に始めました。それまでの絵本は木炭や鉛筆で描いているんですけど、版画をやっている人に、「リトグラフやってみたら。木炭や鉛筆のタッチをリトグラフって、そのまま版画で表現できるよ」って勧められて。最初は手描きの表現の延長という感じで、モノクロの作品をリトグラフでよく作っていました。

もう一つのきっかけが、古い絵本を私はすごく好きで。何冊かリトグラフで描かれた絵本、そこ（会場）にもあるんですけど、ドーレア夫妻の『オーラのたび』とか、ああいう表現をやってみたいなと思っていて。リトグラフってやっぱり色の重なりがすごく綺麗で、そこが特徴だと思うんです。私も綺麗な色の重なりを使った表現をしてみたいなと思うようになり、だんだん色を使うようになって。そうすると今度は、色の重なりでできる表現から逆に絵のアイデアを思いつくようになっていったという感じです。『ぼくのたび』を作るきっかけになったこの絵も、リトグラフをやってなかったらこういう絵は描かなかったのかなと。『ぼくのたび』のもとになっている絵はそういう絵が多いですね。

O：『のはらのおへや』（ポプラ社、2011）は、リトグラフではないけど、4版全部特色で刷って重ねているんですよね。版画的な手法というか。やはり雰囲気がありますよね。

それで、さきほどもお話したように、面白いなと思うのが、みやこしさんの絵本作りの特徴は、お話とか筋書きが最初に決まっていて、それをページに割って絵をつけていくという作り方ではないんですよね。呼び覚ましたい感覚や、ここではない別の世界に連れていってくれる力が、みやこしさんの絵にはあります。そうした、もともとの1枚絵が持っている世界観からエピソードを膨らませて、ページに落としこんだり、組み替えたりしていく。みやこしさんならではの作り方ですね。

M：絵を描く時に、一つ一つの絵の中に、まだ絵本にはなっていない絵ですけど、いろいろな設定とか、この人は何をしているところとか、小さいお話みたいのがいつも入っていて、それらを組み合わせて絵本の設定を作っていくんです。シーンとして入れたい絵が『ぼくのたび』はたくさんありました。それらをどうやって一つのお話にしていくかっていうときに、ラフスケッチ、コマ割りのラフなどを、何パターンも考えていくんです。

O：お話は結構変わるんですよね。台割とかも。

M：『ぼくのたび』は、旅がテーマの絵本をつくろうというところから始まっているんですけど、最初は主人公が旅をして、いろんな経験をしていくってお話でした。お話を作る過程で、そもそも旅の何を表現したいかをいろいろ考えて。それで、旅自体よりも、旅の準備をしている時のワクワク感とか、まだ行ったことのない場所への憧れとかを表現したいなって思うようになりました。私が描いた絵のなかに、ホテルマンの絵があるんですけど、この2色の絵をある時思い出したんです。その絵を描いているときは、お客さんのウサギの気分で描いていたんですけど、お客さんではなく、このホテルのオーナーの視点に寄って、彼のお話にしてみたらどうだろうと思ったときに、全部がつながりました。

O：私がみやこしさんの絵からすごく感じるのは、自分の心の奥底の感情を引き出して、ここではないどこかへ、ふわっと連れてっていってくれる力です。例えば、鈴木のりたけさんとかヨシタケシンスケさんの絵っていうのは、思考や現象の面白さを幅広く見せていく、図解、イラストレートの要素が強い絵本だとも言えると思うんですよね。でもみやこしさんは、説明できない感情を呼び覚ます、ペインターとしての絵本を描かれていると思います。

昔、みやこしさんが、インタビューに明快に答えられないことを悩まれていたことがあって。例えば、図解の絵本を描かれている場合は、自分の意図やコンセプトを明解に説明できると思うんですけど、でも、みやこしさんの絵はどちらかというと、本で言うと小説に近い。読み終わった後になぜ感動したのか、自分でもすぐには言葉にできない。そういう感情を引っ張り出してくれる絵を描かれているのだから、むしろすぐに答えがさらさらと出てこないのは、誠実で自然なことではないでしょうか、とお話したことがありました。

左から沖本敦子さん、みやこしあきこさん

M：胸に残ったものをスケッチで落とし込んでおいて、そのピースをはめ込んで、一つのお話を作っていく。絵本を構成する絵の一つ一つが自分の経験したことだったり、その時にあーいいなと思ったこととか、寂しい気持ちとか。そういうものを込めて、描いています。なにか言葉になっていないものを描いている感じなので。

O：それが鑑賞する側にも伝わってくるんですね。そういう絵を描ける人って、なかなかいないと思うから、本当に素晴らしいと。

『ぼくのたび』のラフをいただいたときに、みやこしさんらしいテキストだなと思ったのが、「とちゅうで　なつかしい　ゆうじんのところにも よろう。もしかしたら ゆうじんのゆうじんも ぼくのことを もてなしてくれるかもしれない」って書いてあるところ。このちゃっかりもてなされようと考えているところとか、みやこしさんらしさもあって。人間の体温が感じられて、リアルで、とても好ましいなと思いました。みやこしさん自身も旅が好きで、いろいろな経験をして、人と出会って、そうしたものが生きているんだなと思いました。みやこしさんの旅の写真を見ると、あちらこちらでもてなされていますもんね。

M：すごく濃ゆい経験がいっぱいあって。自分も逆の立場の時は、ぜひもてなしたいなという感じなんですけど。

この写真は、ハワイのモロカイ島ってところで、うつっているのはうちの母なんですけど、広いビーチに二人しか人がいなくって綺麗だったんです。このときの光が印象的で、それがこの絵（『ぼくのたび』pp.12-13）になりました。眩しすぎて、影が青く見えるとか、そういうのを描きたくて、こういう色合いになりました。

O：本当に美しい絵ですよね。このページのテキストは「じゆうに　いきたいほうに　すすむ」。これは脱線エピソードかもしれないですけど。当時、いろいろ思い悩んでいた後輩がいて、彼女が「この色校をください！」って言って、デスクの前にずっと貼っていたんですよ。

M：主人公のおじさんが、忙しい1日を終えてひとりでいるときに、どこかへ行きたい気持ちがこみ上げてくるシーンがあるんです。おじさんがひとり、部屋で寝ている絵なんですけど。あれを見て、ダンサーの人が「会社を辞める前の自分みたいです」って言ってくれて、思いがけない言葉で、おもしろいなって思ったんです。

O：やはり一枚一枚の絵が強いから、感情を呼び覚ますんでしょうね。思い入れのある絵やシーンを組みあわせて、ストーリーができているので。ページごとに強い感情を呼び起こすものが詰まっているので、すごくいいなって思いますね。

私も、編集者としていろいろな作家さんと仕事をさせていただくのですが、作家さんのパーソナリティに合わせて、自分のやり方を変化させていきたいと思っているんですね。お仕事をしていて、みやこしさんから感じるのは、饒舌に「こうで、こうだから」と言う方ではないんだけども、ご自身の中に、作品ごとに新しい世界に挑戦して、「こういうものを作りたいんだ」という意識が、揺るぎなくある作家さんだなと思います。

ラフが何度も変わったり、構成が変わったりしていくときに、みやこしさんが「う〜ん」って悩まれていると、そのラフがすでにいいと、私のような編集者は早く作品を世に出したいから、「このままでいくのもよいのでは」とか言いがちなんです。でも、あるときに、みやこしさんはそういう作家さんではないんだなと気づいて。みやこしさんの中で、着実に世界ができたら、完璧なものを提示してくれる作家さんなので、サポートできることはしつつ、傍でじっくり待つ、というやり方が一番いいんだなと、『ぼくのたび』を作っているときに思いました。ご自身の世界への愛着や、クリエイティビティへの自信だとか、そういうものが、みやこしさんからはとても強く感じられます。

みやこしあきこ作、『ぼくのたび』ブロンズ新社、2018、pp.12-13

M：編集者の方は、すごくもどかしいと思います。私もなんか、こう一回作ってから、今もいくつか作りたいなと思っている絵本があるんですけど。私の絵本は、大体どの作品も、制作には３年か4年ぐらいかかってしまうんです。一度できてから、途中段階でも何回か寝かせるというか。常に寝かせている絵本があって、そのどれかが育っていくという感じがしていて。私もいろいろ描きつつですけども、それを待っているんです。

O：他社のみやこしさんの担当編集者の方とも話したことがあるのですが、みやこしさんから作品が生まれてくるのをサポートして、ちょっと引いて待つと。みんなで静かに応援しながら、作品を大切に世に出して行きたい、という想いが共通しているなと。みやこしさんの世界には、揺るぎない世界観と、深い魅力があるので、編集者も、じっと待ちつづけることができるのだと思います。

＊第1部と第3部の記録は後日公開いたします。（文責：企画委員　今田）

■お知らせ

2020年度の絵本フォーラムは、年明けにオンラインでの開催を予定しています。詳細が決まりましたら、学会公式サイトでもお知らせします。

2020年度研究助成審査結果報告

協議の結果、下記の3件を採択しました。

・研究テーマ：フランスの絵本史における、「現代絵本（Album contemporain）」の位置付け－先駆的〈作者-出版者〉クリスティアン・ブリュエルの初期作品を中心に
　申請者：伊藤　敬佑（白百合女子大学 非常勤講師）

・研究テーマ：前衛芸術家が手掛けた絵本の仕事－1960年代～1980年代
　申請者：児玉　茜（国立国際美術館 研究補佐員/金城学院大学 非常勤講師）

・研究テーマ：日本と韓国の絵本において、人間社会の「敵」はどのように描かれているのか－「鬼」と「トッケビ」を中心に
　申請者：尹惠貞（ユン ヘジョン）（一橋大学大学院言語社会研究科 韓国学研究センター PD）

イラスト：井之口真央

研究委員会からのお知らせ

研究委員会では下記のとおり対面での絵本セミナーの開催を予定しています。会員のみなさまのご参加をお待ちしています。なお、詳細については、チラシまたは絵本学会ホームページをご覧ください。

◉ 2020年度絵本セミナー
スズキコージさんたちと語る昔話絵本の魅力 ―
『ジョージアのむかしばなし チンチラカと大男』を中心に

日時　2021年3月14日（日）　13:00 ～ 16:00
場所　大阪府立中央図書館多目的室
講師　スズキコージ氏　絵本作家
　　片山ふえ氏　　ロシア文学翻訳家
　　鈴木加奈子氏　　絵本編集者

申込み方法：メールで申込み　ehongken2018@gmail.com
申込み受付開始：2021年2月1日（絵本学会会員）
　　2021年2月10日（一般申込み）
定員：40人（申込み先着順）
参加費：1,000円
主催：絵本学会・（一財）大阪国際児童文学振興財団
問合せ先：絵本学会研究委員会　072-674-8946（丸尾）
　　大阪国際児童文学振興財団　06-6744-0581
　　http: //www. iiclo. or. jp

絵本学会Who's who

今号は、鈴木穂波理事について、梅花女子大学名誉教授・元絵本学会会長の三宅興子先生がご紹介してくださいました。

鈴木穂波さん　絵本のなかへ、なかへと・・・

三宅 興子

鈴木穂波さん：絵本好きが高じて、絵本の本質を考える研究に邁進し、絵本で博士号を取得し、その成果を多くの人に伝えようといろいろな取り組みを日々実践しているひと。

鈴木さんは、椋鳩十「母と子の20分間読書」という読書運動の影響が残る鹿児島県で、1970年代の幼少時を送り、自宅にも本があって、ご両親も本好き、新しく発刊された子どもの絵本や作品に豊かに触れる日々を送っています。その時代は、日本の子どもの本の黄金時代でした。彼女の身体には、子ども時代の本体験が血肉化しているように感じます。

日本では、1950～60年代にかけて本格的な創作絵本の出版が始まり、1926、1927、1928年生まれのクリスチャンという共通項のある福音館の松居直さん、至光社の武市八十雄さん、こぐま社の佐藤英和さんは、まるで絵本の伝道師のように、それぞれの絵本創りに乗り出していました。それに、伴走するように各国の翻訳作品も盛んに紹介された時代でした。

鈴木さんは、今はなき梅花女子大学文学部児童文学科に入学しました。授業でわたしが「絵本の研究会と幼稚園文庫をはじめます」とメンバーを募ったのは1994年でした。鈴木さんとの出会いでした。

太平洋戦争の最中に幼児であったわたしのまわりには、絵本は一冊もありませんでした。後に知ることになる「戦争礼讃を植え付ける絵本」にさえ触れていません。しかし、1945年に小学生になると活字好きとなって何でも読み、貸本屋や古書店に出入りして、講談本や少年少女雑誌を乱読しました。本好きが高じて「子どもの本の研究者」になっていたのです。

梅花に移籍してから、ずっと子どもと本を読むという実践の場を求めていて、「幼稚園文庫」の設立を学科会議に諮ったのですが、一人の支持も得られませんでした。そこで、自分ひとりが責任を負える方法を模索し、梅花幼稚園とのプロジェクト研究として、「こうめ文庫」という絵本文庫の開設に漕ぎ着けました。文庫の日は、学生も私も、それまでに持っていた絵本概念を試され、壊され、新しい絵本体験をすることになりました。

学部から修士課程に進んだ鈴木さんは、「絵本における生の表現――食・排泄はどう描かれ、どう受け止められているか――」という論文を書き、中学校の学校司書として8年間働きました。その経験は「小・中学生にももっと絵本を！」というコンセプトの『学校図書館発絵本ガイドブック』（浅野法子・三宅興子との共著、翰林書房、2004）に存分に活かされました。その後、博士課程に入学、5年をかけて「絵本における"生"の表現――読み手との関係性を中心に――」を書き上げました。「絵本は力」とか「絵本はコミュニケーション」などといわれますが、「なぜ、絵本なのか」という問いに答えているようで、充分ではありませんでした。鈴木さんの「苦労」は、絵本の本質を「"生"の表現」として、言語化することにありました。博士論文の第一読者として、絵本一作ずつの分析の確かさに驚き、触発されることの多い論文でした。この研究課題は、いまも続いていて、現在、長新太さんの絵本と取組中――素手で探りながら深海に潜っていく難行のような冒険と言ったら大げさすぎるでしょうか。

教員としての鈴木さんは、学生たちを「絵本好きの仲間」に引き入れ、幼稚園での実践を続け、絵本関連の論文を多数発表しています。

イラスト：井之口真央

新入会員の自己紹介コーナー

石坂　律子

兵庫県在住の石坂律子と申します。このたびは絵本学会のお仲間に加えていただきありがとうございます。

私は地元の公共図書館、公民館などでおはなし会を20年以上続けてきました。子どもたちとの絵本体験を重ねれば重ねるほど絵本の持つ力を感じ、もっともっと絵本のことを知りたいとの思いが膨らみ、昨年絵本専門士の学びの機会を得ました。絵本があらゆるジャンルで人の心と関わり、思っていた以上の可能性を秘めていることに改めて気づき、さらに学び続けたいとの思いを強く持ちました。こちらでの皆さまと学びを共有することで自らも奮起し、絵本を通して地域の子育て支援の力になりたい、五感に波及する絵本読みをしていきたい、という目の前の目標に向かおうと思い入会いたしました。よろしくお願いいたします。

上野　康治

はじめまして。若手保育者・学生に文脈理解への興味を深めてもらうことを目的とした、絵本の物語理解のための支援手法の研究を行っています。

同志社大学大学院 総合政策研究科修了。専門は情報システム。

同志社大学で絵本に関するPBL教育を担当するなか、絵本と情報システムを結びつけた研究・教育に関わることになりました。

絵本に関する論文は以下の通りです。

「興味度の抽出機能を持つ教材埋め込み型電子絵本の提案（情報処理学会第74回全国大会）」,「キャラが媒介するマルチストーリ型デジタル絵本の提案（人工知能学会全国大会（第26回））」

よろしくお願いします。

毛利　真実

はじめまして。このたび入会させて頂きました毛利真実と申します。神戸大学ほかでドイツ語、ドイツ文学、ドイツ児童文学の講義を担当してまいりました。私の専門分野は、主にドイツロマン派文学、ドイツメルヘン、児童文学です。

兵庫県芦屋市の公立幼稚園教員として勤務後、ドイツメルヘンの勉強をしたいと思い子育ての傍ら、大学に入り直して勉強しました。言葉と絵画との関係に興味、関心があり、子どもたちの心に響く絵本の研究を続けていきたいと思っております。

どうぞよろしくお願いいたします。

絵本学会理事会報告

今年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、対面での理事会の開催ができませんでした。そのため、通常の理事会とは異なり、その都度、必要に応じて各委員会からの報告や審議事項がメールにて発信され、審議するという形をとってきました。正式な形での議事録が作成されておりませんので、メール審議の記録として掲載いたします。

◎2020年度理事会メール審議録１

日　時：2020年6月26日（金）発信
回　答：澤田精一（会長）　松本育子（事務局長）　今田由香
佐々木由美子　藤本朝巳　長野麻子　鈴木穂波
生田美秋　丸尾美保　甲木善久

◆審議事項
1 入退会者について（2020年4月29日～6月26日）
以下の新入退会者（敬称略）が承認された。
入会者：石坂律子　上野康治　パンオン百合　山本辰典
池田彩実　河村彩　新井恵美子　毛利真実
（払込日順）　計8名
退会者：村上祐喜子　安田悟　水倉新六　尾木沢響子
道又紫穂　計5名

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

◎2020年度理事会メール審議録２

日　時：2020年7月17日（金）発信
回　答：澤田精一（会長）　松本育子（事務局長）　今田由香
佐々木由美子　藤本朝巳　長野麻子　鈴木穂波
生田美秋　丸尾美保　甲木善久

◆審議事項
1 日本絵本研究賞運営委員会より
①日本絵本研究賞運営委員の推薦について
生田理事（委員長）より、新たな規程に基づき、運営委員の推薦がなされ、審議の結果、以下の5名が運営委員として承認された。
澤田精一（会長）、甲木善久（理事）、丸尾美保（理事）、
鈴木穂波（理事）、生田美秋（理事）

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

◎2020年度理事会メール審議録３

日　時：2020年7月19日（日）発信
回　答：澤田精一（会長）　松本育子（事務局長）　今田由香
佐々木由美子　藤本朝巳　長野麻子　鈴木穂波
生田美秋　丸尾美保　甲木善久

◆審議事項
1 研究委員会より
①研究助成審査結果について

丸尾理事（委員長）より、研究助成について以下3件を採用とする旨報告があり、審議の結果、承認された。
・研究テーマ：フランスの絵本史における、「現代絵本（Album contemporain）」の位置付け―先駆的〈作者-出版者〉クリスティアン・ブリュエルの初期作品を中心に
申請者：伊藤 敬佑（白百合女子大学　非常勤講師）
・研究テーマ：前衛芸術家が手掛けた絵本の仕事― 1960年代～1980年代
申請者：児玉 茜（国立国際美術館　研究補佐員/金城学院大学　非常勤講師）
・研究テーマ：日本と韓国の絵本において、人間社会の「敵」はどのように描かれているのか―「鬼」と「トッケビ」を中心に
申請者：尹惠貞（ユン ヘジョン）（一橋大学大学院言語社会研究科 韓国学研究センター　PD）

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

◎2020年度理事会メール審議録４

日　時：2020年7月24日（金）発信
回　答：澤田精一（会長）　松本育子（事務局長）　今田由香
佐々木由美子　藤本朝巳　長野麻子　鈴木穂波
生田美秋　丸尾美保　甲木善久

◆報告事項
1 第23回絵本学会大会実行委員会より
①第23回絵本学会大会について
藤本理事（第23回絵本学会大会実行委員長）より、開催地熊本の事情等もあり熊本での大会開催が困難であることが報告された。中止にするのか、さらに延期にするのか、別会場を探すのか等については、新型コロナウイルスの感染拡大状況をみながら、継続審議をしていくことになった。

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

◎2020年度理事会メール審議録５

日　時：2020年10月2日（金）発信
回　答：澤田精一（会長）　松本育子（事務局長）　今田由香
佐々木由美子　藤本朝巳　長野麻子　鈴木穂波
生田美秋　丸尾美保　甲木善久

◆報告事項
1 紀要編集委員会より
鈴木理事（委員長）より、紀要の発行について以下の報告があった。
①発行スケジュール
②発行内容について
③応募状況について

◆審議事項
1 紀要編集委員会より
①会費未納者を含む連名執筆論文の取り扱いについて
投稿規程に鑑み、本論文は受理しないことが審議の結果、承認された。

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

◎2020年度理事会メール審議録６

日　時：2020年10月6日（火）発信
回　答：澤田精一（会長）　松本育子（事務局長）　今田由香
佐々木由美子　藤本朝巳　長野麻子　鈴木穂波
生田美秋　丸尾美保　甲木善久

◆審議事項
1 日本学術会議任命拒否問題に関する3学会緊急声明について
日本学術会議第25期新規会員任命に関する緊急声明を、日本児童文学学会、英語圏児童文学会、絵本学会の3学会共同で声明をだすことが、審議の結果、承認された。

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

◎2020年度理事会メール審議録７

日　時：2020年10月7日（水）発信
回　答：澤田精一（会長）　松本育子（事務局長）　今田由香
佐々木由美子　藤本朝巳　長野麻子　鈴木穂波
生田美秋　丸尾美保　甲木善久

◆審議事項
1 第23回絵本学会大会実行委員会より
①第23回絵本学会大会の中止について
藤本理事（第23回絵本学会大会実行委員長）より、第23回絵本学会大会の熊本での開催を中止としたい旨が提案され、審議の結果、承認された。講演者、ラウンドテーブル、発表者への対応については継続審議となった。

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

◎2020年度理事会メール審議録８

日　時：2020年10月27日（火）発信
回　答：澤田精一（会長）　松本育子（事務局長）　今田由香
佐々木由美子　藤本朝巳　長野麻子　鈴木穂波
生田美秋　丸尾美保　甲木善久

◆審議事項
1 入退会者について（2020年6月27日～ 10月27日）
以下の新入退会者（敬称略）が承認された。
入会者：大橋淳子　三木麻子　中藤由佳美　坂田佳美　新井悦子
廣川暁生（払込日順）　計6名
退会者：高橋真生　川田雅直　計2名
除籍者：安藤明子　坂田季穂　周堂波　福井一尊　横田重俊
イヴァン ボテフ　今井典子　梅澤尚子　駒田賢一
小水知絵　相馬奈於　髙橋洋子　中西文紀子
中村泰子　日俣雅美　計15名

－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－－

◎2020年度理事会メール審議録９

日　時：2020年11月8日（日）発信

回　答：澤田精一（会長）　松本育子（事務局長）　今田由香
佐々木由美子　藤本朝巳　長野麻子　鈴木穂波
生田美秋　丸尾美保　甲木善久

◆審議事項
1 事務局より
①理事選挙について
松本事務局長より、理事選挙のスケジュール案が示され、審議の結果、承認された。
②第24回絵本学会大会について
松本事務局長より、第24回絵本学会大会案が示されたが、第23回大会の扱いも含め、オンラインでの継続審議になった。

――――――――――――――――――――――――

◎2020年度第1回絵本学会オンライン理事会　議事録

日　時：2020年11月16日（月）19：00〜20：30
出　席：澤田精一（会長）　松本育子（事務局長）　今田由香
佐々木由美子　藤本朝巳　丸尾美保
甲斐聖子（事務局補助）
欠　席：生田美秋　甲木善久　鈴木穂波　長野麻子

◆審議事項
1 第23回大会について
藤本大会実行委員長より、第23回大会は、2021年6月に延期とのことで、第23回総会（書面）にて提案され承認されたが、その後のコロナ禍収束の見通しが立たないことにより、開催地である熊本の実行委員会より、やむなく辞退される旨報告があった。第23回大会については、検討された結果以下の通りとすることとなった。
1. 予定されていた講演会およびラウンドテーブルの内容は、『絵本BOOKEND 2021』に内容を掲載することとなった。
2. 予定されていた研究発表および、作品発表に関しては2021年5月に、第23回、第24回合同大会として愛知県刈谷市で予定される大会において、発表者の意向をもとに優先的に発表が保障されることとなった。

2 第24回大会について
第24回大会は、第23回大会の研究発表と作品発表の場を保障する意味合いも込め、第23回、第24回合同絵本学会大会という名称にし、一部内容・規模を縮小する形で、以下日程・会場にて開催が予定されることとなった。1日のみの開催とし、講演会・フォーラムは行わない。第23回大会と第24回大会の研究発表・作品発表がメインとなり、ラウンドテーブルも予定されている。
テーマ：（仮）東日本大震災から10年、コロナ禍での絵本表現を見つめる
日　時：2021年5月30日（日）11：00〜16：30（受付開始　10：30）
会　場：刈谷市総合文化センター 4階
研究発表、ラウンドテーブル：401 〜 404研修室
作品発表：405 〜 406研修室
次号の『絵本学会NEWS』において、第23回、第24回合同大会として開催を予定するに至った経緯の説明と、第23回、第24回合同大会の日時と場所などの情報を会員へ案内することが決まった。

3 理事選挙について
理事選挙について松本事務局長より、資料を基に説明があった。スケジュールおよび会員に対する「役員選挙のお知らせ」の内容に関しては承認された。選挙管理委員については、松本事務局長が選出し、年内に理事会にて諮ることとなった。

◆報告事項
1 各委員会報告
① 企画委員会
今田企画委員長より、2019年度のフォーラムに関しては、全体（3部構成）のうち、第2部を次号『絵本学会NEWS』にて掲載することが報告された。また、全体についてもどこかで掲載できるように、調整中であることが話された。
また、2020年度のフォーラムに関しては、オンラインでの開催を計画中である旨報告があった。
② 紀要編集委員会
特になし。
③ 機関誌編集委員会
藤本編集委員長より、『絵本BOOKEND 2021』について編集方針が決まり進行中である旨報告があった。
④ 研究委員会
丸尾研究委員長より、2020年度の絵本セミナーを、2021年3月14日（日）に大阪府立中央図書館にて開催予定である旨報告があった。
内容は、『ジョージアのむかしばなし　チンチラカと大男』の絵本を中心に、スズキコージ氏（画家）、片山ふえ氏（文作者）、鈴木加奈子氏（編集者）のシンポジウムを予定している。詳細については、『絵本学会NEWS』やチラシで会員に広報したい。
⑤ 広報委員会
特になし。
⑥ 日本絵本研究賞運営委員会
生田運営委員長にかわり、丸尾理事より「日本絵本研究賞・日本絵本研究賞特別賞の進捗状況について」報告がなされた。

2 事務局より
・後援について
軽井沢絵本の森美術館からの後援申請を承認する。
展覧会名：2020年度春夏展「鏡の国のアリス」
会　期：前期 2021年3月1日（月）〜 6月21日（月）
後期 6月23日（水）〜 10月11日（月）
主　催：軽井沢絵本の森美術館

編集後記

・戸惑いや不安の中にあっても、季節はちゃんと忘れずにめぐってきます。春学期は初めてのことに追われて、紫陽花がいつ咲いたのかも記憶にないほどでした。この秋は金木犀の香りを存分に楽しむことができました。いつも身近にあったのに、私に立ち止まる余裕がなかったのです。絵本もそうです。いつも身近にあって、ページを開きさえすれば、そこには豊かな世界が広がっているのに…。今号もたくさんの方にご協力いただき、無事にNEWSを発行することができました。感謝申し上げます。

（佐々木由美子）

・「絵本専門士」をご存知ですか。平成26年から文科省の外郭が導入した資格制度です。例年応募が多く、平成31年からは新たに大学・短大で資格が取得できる「認定絵本士」養成講座がスタートし、全国に広がりを見せています。
この度「認定絵本士」養成講座のテキストを刊行することになり、執筆原稿に続いて講師一覧を校正するよう連絡がありました。執筆した講師は28名で、わたしを含めて12名が絵本学会会員です。しかし、所属に絵本学会会員と記したのは2名。PRとまではいかなくてもせめて所属に絵本学会会員と記してほしかった。

（生田美秋）

・新型コロナウイルスと共存していく日常が始まりましたが、そのことで生活に大きな影響を受けていらっしゃる会員の方も多いと思います。冬になり感染の再拡大が報じられる今日この頃ですので、お互い体調管理に気をつけて辛抱強く対応していきましょう。会員の皆様やご家族、ご親戚、知人友人、同僚に感染された方もあるかも知れませんが、一日も早い快復を祈っております。

（甲木善久）

・毎日、小さな窓から空を見ていました。
そしていつの間にか四季が過ぎて行きました。
沢山の絵本と出会い、沢山の方々と一緒に読み合うことができる日を願っています。
今号もご協力いただきました皆さまに感謝申し上げます。

（宮崎詞美）

絵本学会